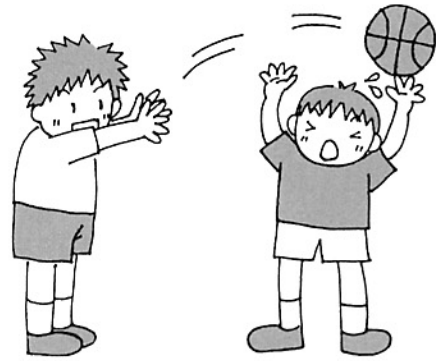


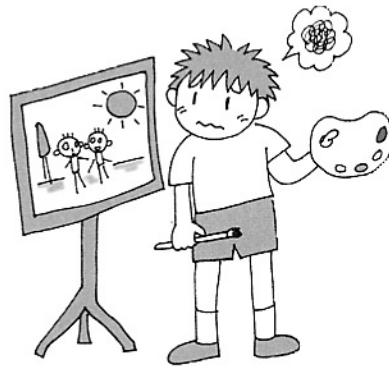
# 不器用な子どもたち



はさみがうまく使えない



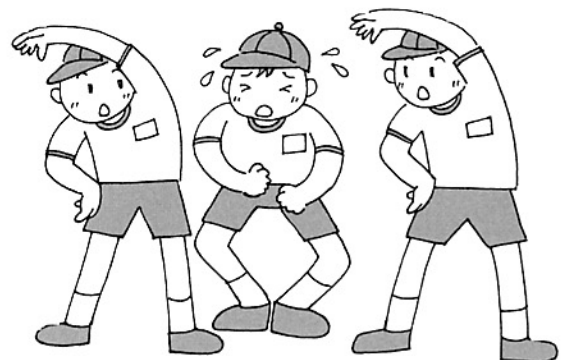
ボール運動が苦手



絵が苦手



楽器の演奏が苦手



体操などで動きがあわない

あなたのクラスには  
このような子どもは  
いませんか？

●体育では

- ・走り方がぎこちない
- ・縄跳びやボール運動が苦手
- ・体操などで動きがあわない

●算数や国語では

- ・文字が枠からはみ出してしまう
- ・図形が苦手
- ・計算が不得意



●図工や家庭科では

- ・はさみが使えない
- ・折り紙がうまくできない
- ・絵が苦手
- ・針に糸が通せない

●生活の中では

- ・靴のひもが結べない
- ・何ごとにも時間がかかる
- ・発音が悪い

●音楽では

- ・リコーダーなど楽器の演奏が苦手
- ・リズムにあわせるのが苦手

## 次のような理由が考えられます

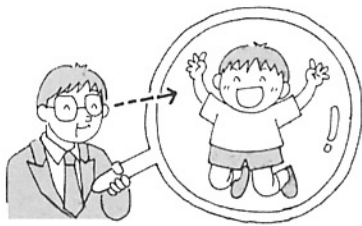
1. 上手に箸が使えない、靴ひもが結べないなど、日常動作の問題として  
目と手の協応など手先の運動の働きが悪い場合があります。
2. 片目を閉じることができない、片足で立てないなど、いわゆる粗大運動の問題として  
身体全体の運動での発達が未熟な場合があります。
3. 経験不足の問題として  
これまでの生活場面の中で、全く経験していないことが多いようです。また、人や物事に対して強い緊張や抵抗のある子どもは、失敗を恐れて新しい出会いを避けてしまうことがあります。
4. 集団不適應や対人関係の問題として  
ことばによるコミュニケーションの問題があります。また、相手の身振りや表情からその意図をくみ取ることができなかつたり、自分でもそのような非言語的なコミュニケーション手段を用いることができないなどの、対人認知の問題があります。
5. 描画や構成ができない、身振り模倣ができないなど、脳神経に起因すると思われる問題として  
注意力の不足、脳機能の偏りの問題などがあります。

## 👉 かかわりのポイント ①

**どこでつまづいているのかを子どもの生活に即して明らかにしましょう。**

つまづいているところは、子どもにより様々です。「どこまでできて、どこからできないのか」、「何が得意で、何が苦手なのか」、「苦手な課題の中で、比較的できることは何か」などを見極めましょう。

また、場所やかかわり手により、子どもの様子が変わる場合もあります。学習環境を変えたときの子どもの様子の変化に注目してみましょう。日常生活や友人関係などの変化が影響することもあります。



つまづいているところにより、指導のポイントが変わります。その子のつまづきの様子をよく観察しましょう。

## 👉 かかわりのポイント ②

**子どもが生きるような具体的な指導の手だてを考えましょう。**

単純で見通しの持ちやすいものから複雑で多様なものへと、子どもの状態に合わせて課題を用意することが必要です。一つひとつの課題を細かく分析し、スモールステップで指導しましょう。そして、焦らず気長に取り組みましょう。課題には、身体全体を使った粗大運動や指先などを使う微細な運動などを取り入れ、遊びやゲームなどの楽しい活動の中で行うことが大切です。

また、道具を一人ひとりの状況に合わせて準備することも必要でしょう。子どもの利き手を確認し、利き手にあった道具を選ぶこともポイントの一つです。使いやすいように道具に手を加えることも考えましょう。



イラスト協力

三国町在住 濱中香里さん

## かかわりのポイント ③

子どもが情緒的・心理的な面で  
つまづかないような配慮をしましょう。

学年が進むにつれ、自分ができないことに気がついていきます。できないことが一番辛いのは、本人なのです。

「みんなと同じようにやりたいのにできない」という思いが積み重なっていくことで、できることに関しても、だんだん自信をなくしがちです。できないと分かっていることについては最初から投げやりな態度で活動したり、生活全てに消極的になったりしていきます。

「本人の得意なこと」、「できたという喜びの味わえること」を日常の活動の中にたくさん盛り込んでいくことで、まず本人に自信をつけさせてあげましょう。



## かかわりのポイント ④

みんなで子どもを支えていく  
工夫をしましょう。

担任の先生だけでなく学校全体の中でその子を支えていく体制を作っていくことが必要です。

また、子どもの中には自閉的傾向や、LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥多動症)といった障害がある場合があります。子どもの発達にあった援助のできる専門機関を利用することも必要です。特殊教育センターも、先生方とともに子どものサポートをお手伝いします。



※LD(Learning Disabilities)  
ADHD(Attention-Deficit Hyperactivity Disorder)

### 〈参考図書〉

子どもの不器用さ …その影響と発達の援助…  
辻井正次・宮原資英 編著 ブレーン出版  
発達(季刊)No.51 …特集:不器用な子への援助…  
岡本夏木・村井潤一 監修 ミネルヴァ書房  
新・感覚統合法の理論と実践  
坂本龍生・花熊 暁 編著 学習研究社

# 業務案内

## 相談

- ・日常生活や就学、教育に関する相談を行っています。保育園や学校に出向いての相談も行います。  
【教育相談】
- ・お子さんの状態にあわせて、定期的な通所による指導と共に相談を行っています。お母さん方の悩みを受け止め、子育ての支援をしています。  
【教育指導】
- ・小・中学校の通常の学級に在籍する言語面や情緒面で気がかりなお子さんには、学校に出向いて指導や相談を行っています。お子さんの状態によって個別指導や小集団指導を行い、学校での環境調整や担任および学校と保護者との環境調整などのコンサルテーションも行っています。  
【巡回指導】
- ・遠方で来られない方のために、県内各地を巡回する相談会も行っています。  
【巡回教育相談会】

## 研修講座

- ・初めて特殊教育に携わる教職員のための基礎研修、新採用教員のための初任者研修を行っています。
- ・障害児教育の専門性を高めるための専門研修、実技研修を行っています。
- ・県内外から著名な講師を招き、最新の情報をお伝えします。

## 研究・啓発

- ・特殊教育に関する研究課題を設定し、調査・研究を行っています。
- ・県内の特殊教育諸学校や特殊学級、県外の研究機関と協力し研究しています。
- ・障害に応じた教材・教育の開発、制作を行っています。
- ・県内の特殊教育に関する「情報センター」としての役割も担っています。

## 気軽にお電話を



相談日時：月～金曜日(9:00～17:00)

- ・相談内容の秘密は厳守します。
- ・費用は無料です。

### 福井県特殊教育センター

〒910-0846 福井市四ツ井2丁目8番48号

(URL) <http://www2.interbroad.or.jp/fukuisec/index.html>  
(e-mail) [fukuisec@ma.interbroad.or.jp](mailto:fukuisec@ma.interbroad.or.jp)

TEL/FAX: (0776) 53-6574  
52-6272

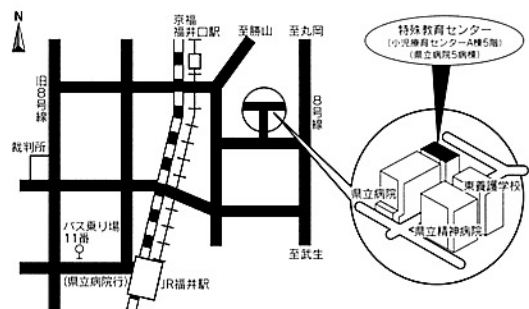
### 福井県教育庁嶺南教育事務所特殊教育課

〒917-0241 小浜市遠敷2丁目205

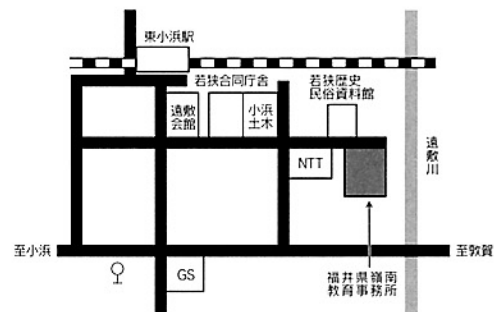
TEL: (0770) 56-1095  
FAX: (0770) 56-1391

### 敦賀駐在

TEL: (0770) 22-0001  
(内線295)



※バスを利用される方は、福井駅京福バス乗り場11番から県立病院行きにお乗りください。県立病院下車です。



※JR東小浜駅下車  
徒歩約7分

平成12年1月発行